

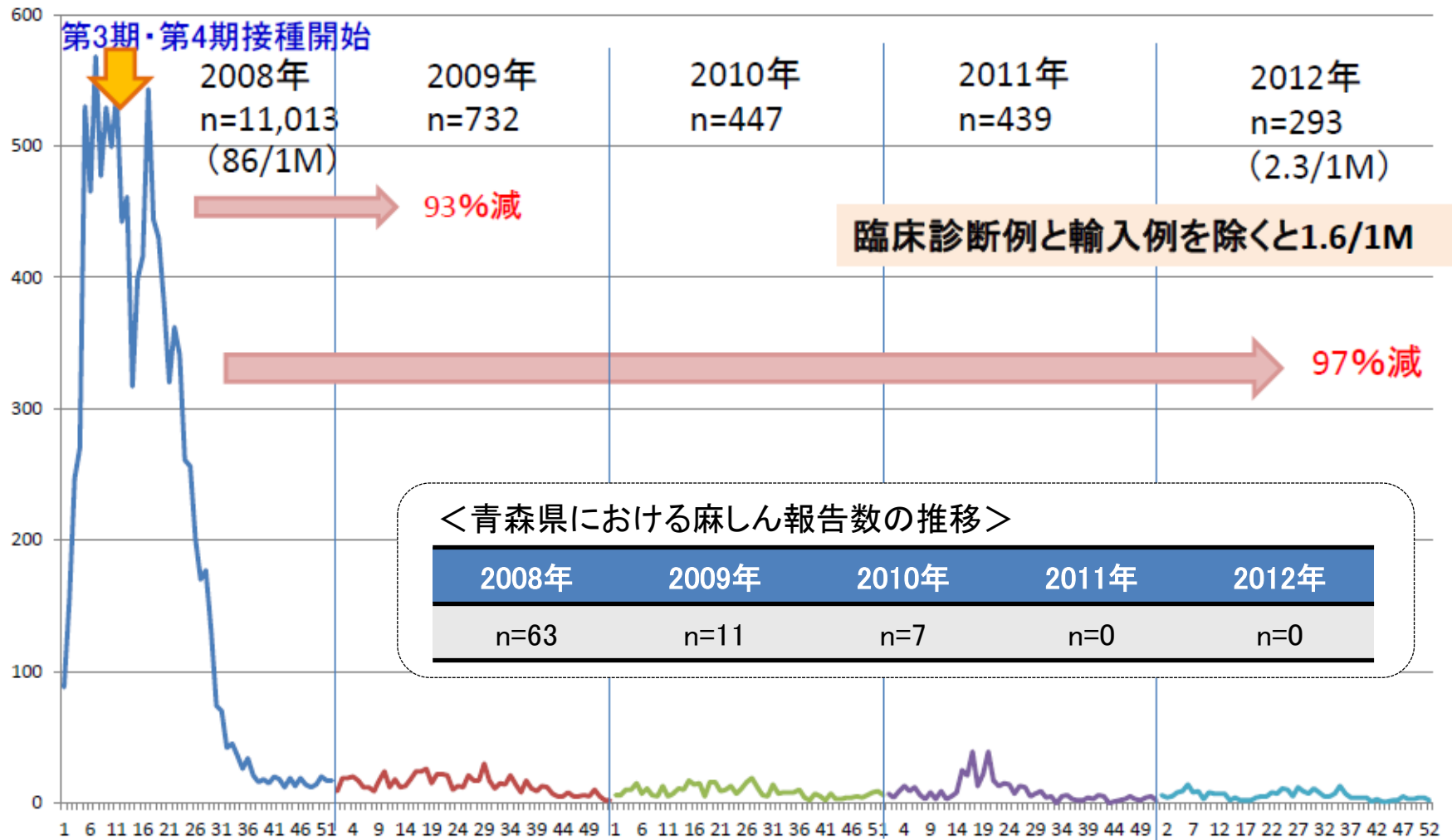
麻しん発生動向の把握及び評価 について

青森県健康福祉部保健衛生課



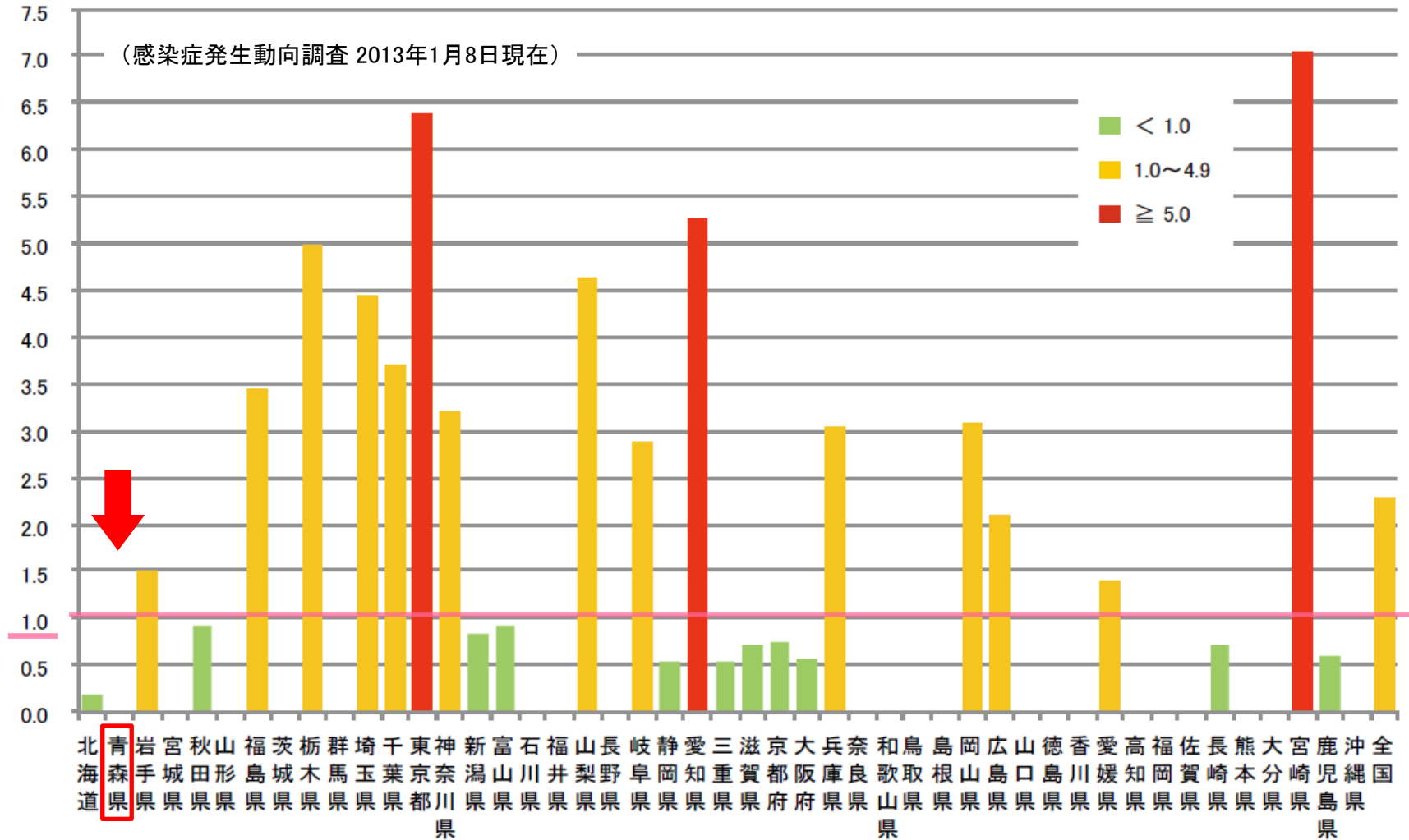
週別麻しん報告数の推移

2008～2012年 (2013年1月8日現在)



(2008～2011年の報告数は2012年3月14日現在)

都道府県別人口百万対麻しん報告数(2012年)



診断にウイルス遺伝子検査を積極的に導入した結果、2年連続で人口100万人当たり1例未満を達成

麻疹PCR検査結果(2012年)

検査月	区分	年齢	ワクチン 接種歴	麻疹PCR			麻疹IgM (数値)	疫学的 リンク
				血液	咽頭ぬぐい液	尿		
1月	疑い例	9ヶ月	なし	未実施	(-)	未実施	未実施	不明
2月	確定例	9ヶ月	なし	(-)	(-)	未実施	(±)1.07	不明
3月	疑い例	5歳	あり	(-)	(-)	(-)	未実施	不明
4月	疑い例	3歳	あり	(-)	(-)	未実施	(-)0.13	不明
4月	確定例	1歳	あり	未実施	(-)	(-)	(+)1.67	不明
5月	疑い例	22歳	あり	(-)	(-)	(-)	(-)	不明
6月	疑い例	34歳	不明	(-)	(-)	(-)	(+)1.62	不明
6月	疑い例	3歳	あり	(-)	(-)	(-)	(+)1.85	不明

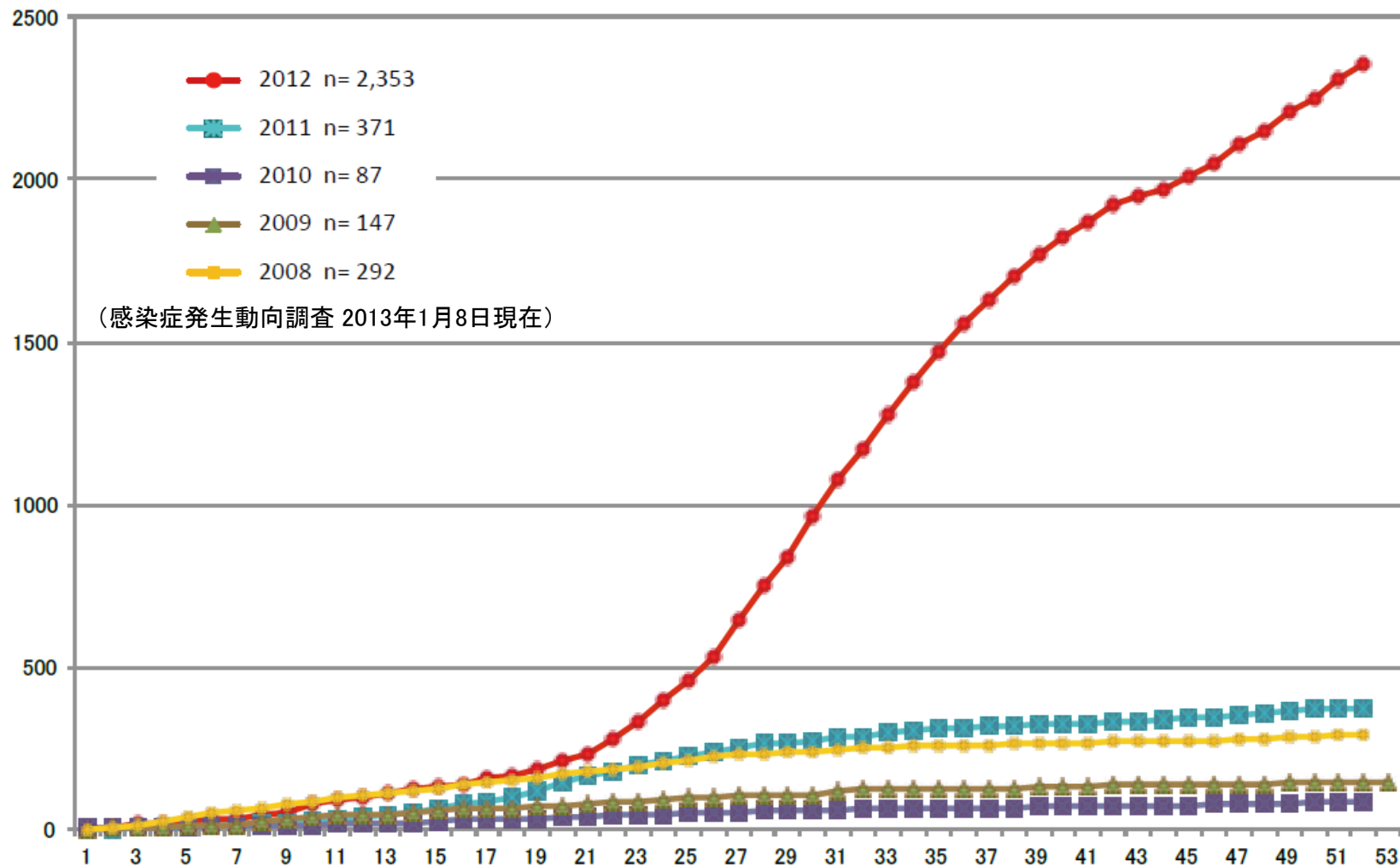
注)1 確定例:届出基準を満たすもの、疑い例:届出基準を満たさないが麻疹感染が疑われるもの

注)2 (-):陰性 (±):判定保留 (+):陽性

注)3 麻疹IgM抗体検査キット(デンカ生研(株))による判定基準 → 陽性:IgM>1.20 陰性:IgM<0.80 判定保留:0.80≤IgM≤1.20

麻疹IgM抗体が陽性であっても、PCR検査や疫学調査等の結果を踏まえ、総合的に判断することが大事

【参考】風しん累積報告数の推移(2008-2012年)



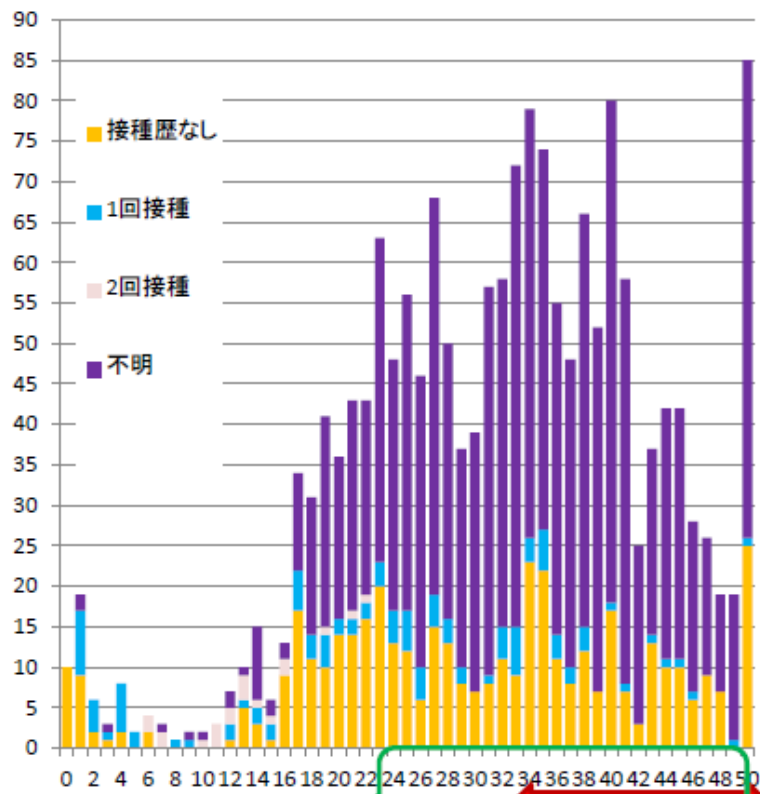
2012年は2008年以降で最多の報告数 (※青森県:2008年1例、2012年2例)

年齢別・接種歴別報告数

2012年(2013年1月8日現在)

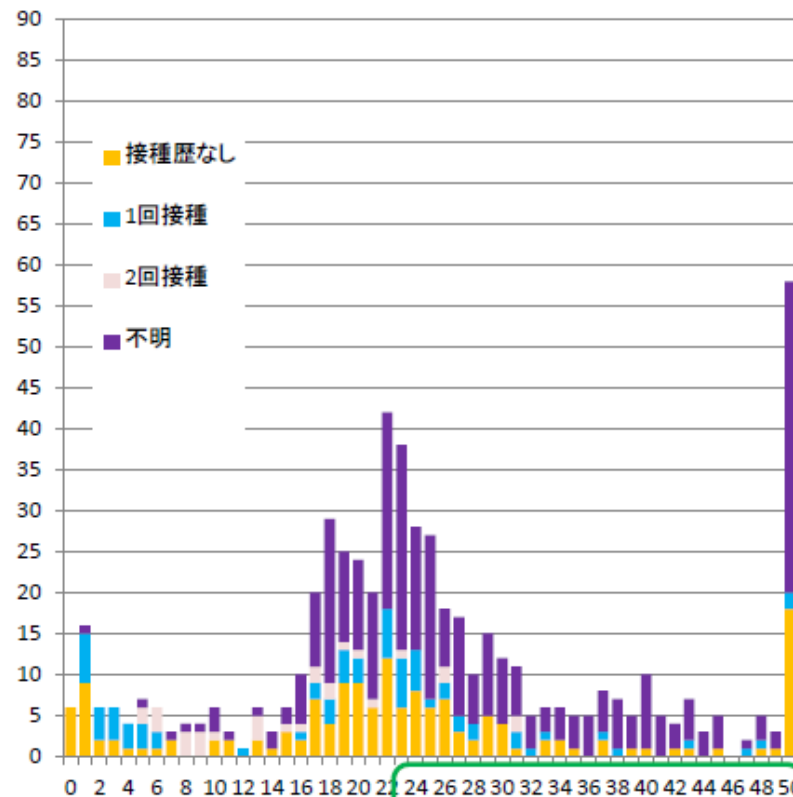
男性 n=1,771

年齢中央値33歳(Q1-Q3: 24-40)



女性 n=582

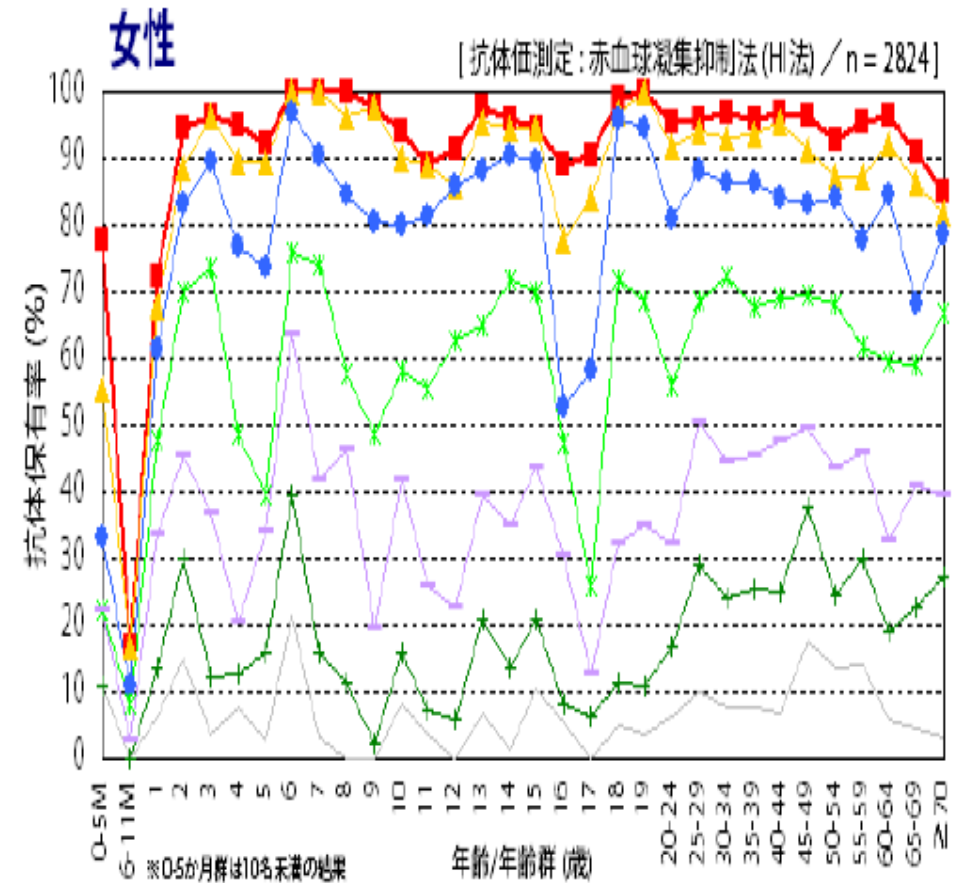
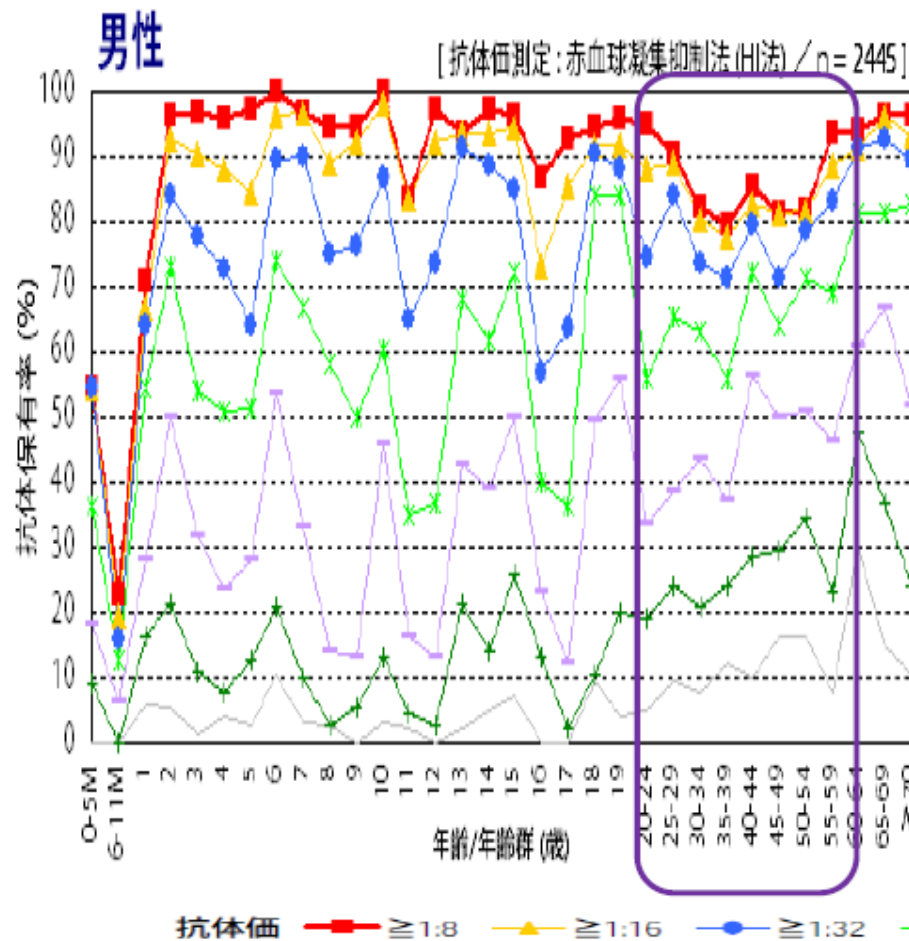
年齢中央値24歳(Q1-Q3: 18-34)



23歳以上: 2回目の定期接種機会がなかった。

33~50歳: 中学生の時に学校で女性のみを対象とした学校での定期接種(集団接種)が実施されていた。

年齢・年齢群別の風疹抗体保有状況 —2011年度感染症流行予測調査より—



先天性風しん症候群(CRS)の報告

1999～2013年、n=25

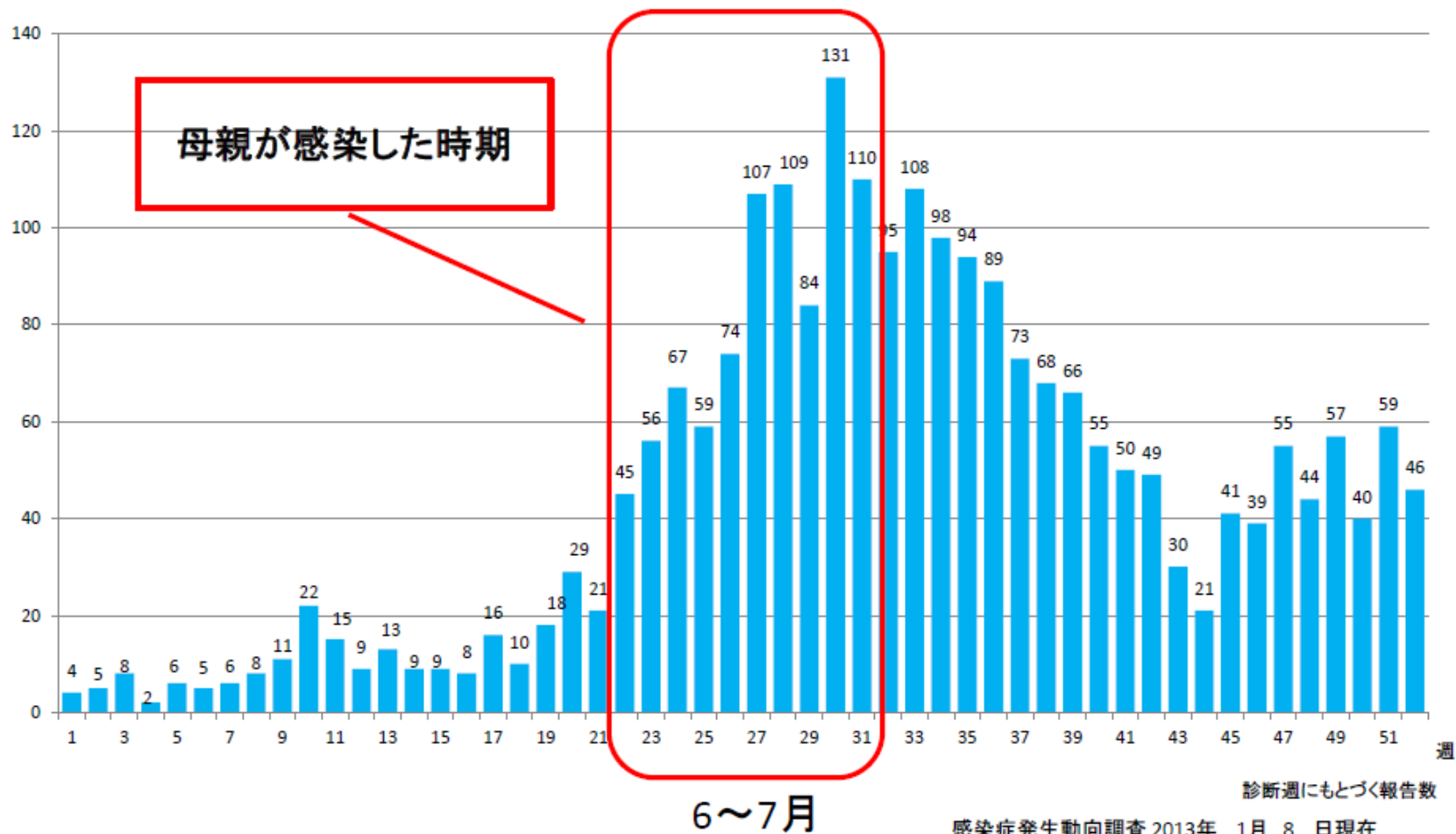
年	報告都道府県	性別	母のワクチン接種歴	母の妊娠中の風しん罹患歴
2000	大阪	女	なし	なし
2001	宮崎	女	不明	不明
2002	岡山	男	不明	あり
2003	広島	女	なし	あり
2004 n=10	岡山	女	不明	あり
	東京	女	不明	あり
	岡山	女	あり(母子手帳に記載)	なし
	東京	男	なし	あり
	東京	女	なし	あり
	鹿児島	女	あり(記憶のみ)	なし
	神奈川	男	あり(記憶のみ)	なし
	熊本	男	なし	あり
	長野	女	不明	あり
	大分	女	なし	不明
2005	大阪	男	不明	あり(インドでの感染)
	愛知	女	不明	あり
2009	長野	男	なし	あり(フィリピンでの感染)
	愛知	男	あり(詳細不明)	あり
2011	群馬	女	不明	あり(ベトナムでの感染)
2012 n=5	兵庫	女	不明	あり(妊娠第7週)
	香川	男	無	あり
	兵庫	女	不明	不明
	大阪	女	不明	なし
	埼玉	男	無	あり(妊娠第17週)
2013	大阪	男	無	あり(妊娠第10週)

1999年(4月～)、2006～08年、2010年は報告なし

感染症発生動向調査 2013年 1月 16 日現在

引用:平成25年3月8日第10回麻しん対策推進会議資料

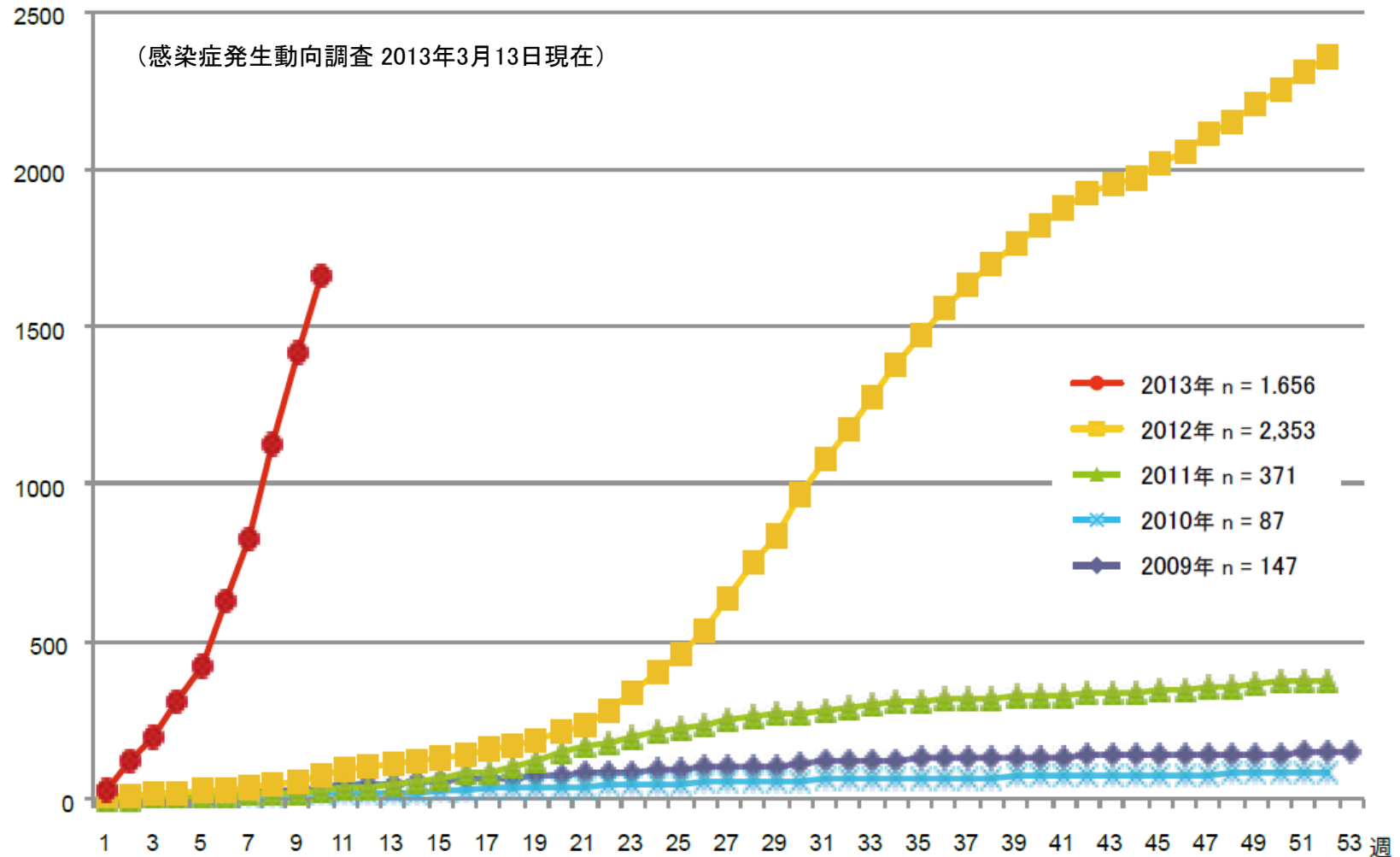
週別風しん報告数 2012年



感染症発生動向調査 2013年 1月 8日現在

引用:平成25年3月8日第10回麻疹対策推進会議資料

風しん累積報告数の推移(2008-2013年第10週)



2013年は、2012年をさらに上回るペースで報告数が増加 (※青森県:2013年1例)

「先天性風しん症候群の発生予防等を含む風しん対策の一層の徹底について
(情報提供及び依頼)」(平成25年1月29日付け厚生労働省健康局結核感染症
課長通知)(平成25年2月26日一部改正)

1. 風しんの定期予防接種対象者(※麻しんと同じ)に対し、積極的な接種勧奨を行うこと。
2. 妊婦への感染を抑制するため、特に、
 - ① 妊婦の夫、子どもその他の同居家族
 - ② 10代後半から40代の女性(特に、妊娠希望者又は妊娠する可能性の高い者)
 - ③ 産褥早期の女性のうち、抗体価が十分であると確認ができた者以外の者に対して、任意での予防接種を受けることについて検討いただくよう、周知を図ること。
3. 貴管内の産婦人科医療機関等に対し、妊婦の同居家族への情報提供を行うとともに、妊娠中に風しんに罹患(疑いを含む。)した女性に対しては、無用な不安をあおらないよう留意の上、妊婦からの相談に応じるなどの適切な対応を行うよう、周知を図ること。
4. 貴管内の小児科医療機関等に対し、次の事項について、周知を図ること。
 - (1) 先天性風しん症候群が感染症法上の全数届出対象疾患であること。
 - (2) 風しん報告数増加地域での妊娠初期検査で風しん抗体陰性又は低抗体価の妊婦から出産した新生児に対し、先天性風しん症候群を念頭におき注意深い対応を行う必要があること。



定期接種の接種率・妊娠出産年齢の女性を含めた成人層の感受性者対策が最大の課題